

関西鍼灸大学活動報告

関西鍼灸大学における最近の活動状況について

本学は、四年制大学に転換後本年度で完成年度となることができました。つまり、本学から平成 19 年 3 月に第 1 回目の鍼灸学士が出ます。本学で教育養成された鍼灸学士が、社会の多方面で活躍してくれることを祈っております。次年度(平成 19 年)には、理学療法学科を解説することになりました。そのため、関西医療大学と校名変更することになりました。そして、関西医療大学保健医療学部として二学科(すなわち鍼灸学科、理学療法学科)で教育が行われます。鍼灸学科は、スポーツトレーナーコースと東洋医療コースの二コース制となります。さらに、大学院修士課程が開設されます。これに伴い、研究体制の整備が行われております。このように、本学は次年度から大きな転換をすることになりました。これらは、時代の要請そして波に伴うものであります。このほか、更なる計画そして改革が予定されております。本学は、東洋医学系の教育研究期間でありますことからこの分野での貢献を果たすべく努めたい期待と思っております。

関西鍼灸大学附属診療所における最近の活動状況について

今回は、本学附属診療所の設立経過と活動の概要について報告した。本稿では、それ以降の具体的な診療所の活動状況について報告する。

I . 一般診療所の活動

(1) 診療所活動の現況

地域の医療機関として地域患者さんの要求に応え、診療所の質を向上させ、また、認知度を上げるため、周辺住民の方々に対して、健康教室や検診業務を推進するとともに積極的な広報活動を行ってきた。その結果、患者数はここ 2~3 年間毎年 20% 近く増加しつつあり、とくにリハビリ科、整形外科、神経内科における患者加が著しく、地域医療への貢献度も大きくなっている。その事により、収入面でも一般診療、鍼灸治療ともに合わせて、診療所全体では、診療報酬の改定があったものの前年度比 8.8% の収入増が確保可能となっている。

(2) 診療体制の充実

医療要求の多様化に対応するため、糖尿病などの生活習慣病の予防を促進を目標に平成 17

年 10 月より栄養指導を週 1 回開始した。リハビリ患者の増加に対しては、理学療法士を増員し、整形外科的疾患ばかりでなく、慢性神経疾患患者への独自の対応を試みてきた。また、健康診断機能の充実を図るため、労災保険二次健康診断指定医療機関として申請し承認され、地域の医療機関としての体制を整えてきた。

(3) 人間ドック・脳ドックおよび健康診断業務の充実

地域医療に貢献するため、ドック健診(人間ドック・脳ドック)、インフルエンザ予防接種、熊取町住民基本検診、企業健診などに積極的に取り組んだ。これら健康診断業務については、次第に地域の認知度も向上し、平成 18 年度も積極的に受け入れ、検診の充実を計った。

(4) 健康教室の充実

地域住民の健康増進を目的に、医師、鍼灸師、理学療法士及び医療職員が連携し東西医学を融合した健康講座を毎月 1 回を原則に開催した。これまで、脳卒中、更年期障害、生活習慣病、睡眠障害など主要テーマを中心に講演を行い、また、日常有用なツボ療法などの実技指導も取り入れ、好評を博した。

(5) 地域医療機関との連携

近隣の医療機関との連携を強化するため、MRI などの検査依頼を積極的に受け入れた。その依頼件数も増加しつつある。

II . 鍼灸治療所の活動

(1) 実習体制の充実

平成 18 年度から大学 4 年次の臨床実習が開始され、教育効果を上げるため、各治療担当者が担当する患者数の平均化を図り、学生間で実習内容に過不足がないよう配慮した。

(2) 鍼灸師の卒後研修

鍼灸師の卒後教育施設として本学卒業生以外にも門戸を広げ、意欲のある鍼灸師を研修生として積極的に受け入れた。

(3) 医鍼連携体制

西洋医学的診療をおこなっている一般診療所との医鍼連携を強化するため、肩凝り、腰痛、膝関節痛など一般症状を中心に医師と鍼灸師が共同して、診断・治療に当たれる臨床チームを形成することを計画している。

(4) 臨床研究

現在、地域住民と共同した臨床研究として、膝

関節痛に対する鍼治療の効果を明らかにするための試みが、EBMに基づいて推進されている。

以上、平成19年4月より、本学は関西医療大学と改変・改組され、鍼灸学科に加え新たに理学療法科が新設され、健康医療学部統合される。また、大学院（修士課程）も併設される。今後、本診療所の役割は、地域医療と臨床教育・研究のセンターとしての発展が望まれている

大学専任教員

学 長 吉 益 文 夫
教 授 (50音順)

上 田 至 宏
亀 節 子
木 村 通 郎
栗 林 恒 一
河 野 暢 之
戸 田 静 男
錦 織 綾 彦
平 尾 幸 久
別 所 寛 人
松 岡 勇 二
横 田 栄 夫
横 田 轟
吉 田 宗 平
若 山 育 郎

助 教 授 (50音順)

榎 田 高 士
大 西 基 代
榎 葉 均
金 井 成 行
川 本 正 純
北 村 智
吉 備 登
黒 岩 共 一
鈴 木 俊 明
谷 美 由 紀
東 家 一 雄
増 田 研 一
山 本 博 司

講 師 (50音順)

五十嵐 純
遠 藤 宏
王 財 源
大 島 稔
木 村 研 一
坂 口 俊 二
武 田 秀 輔
武 田 大 輔

谷 万喜子
鍋 田 理 恵
助 手 (50音順)

赤 川 淳 一
田 中 仁 美
内 田 靖 之
川 上 智 津 江
高 崎 恭 輔
中 吉 隆 之
深 澤 洋 滋
藤 原 清 治
山 崎 寿 也
研究補助員 田 原 壮 平

著 書

- 1) 大西基代, 森下比出子: クロロゲン酸 第3のポリフェノール 第1版. 和歌山. 富士化学工業. 2005.
- 2) 王財源ら(分担執筆): 中国の中医の現状について. 渥美和彦総監修 国際統合医療元年. 初版. 東京. 日本医療企画. 2004: 131-139.
- 3) Wang CY et al.: The Present Situation of Traditional Chinese Medicine in CHINA. In: Kazuhiko Atumi(Eds). The 1st International Meeting of Experts on Integrative Medicine. 1rd edition. Tokyo. Japan Medical Planning. 2004; 131-139.
- 4) 榎葉均: 心と体を結ぶ感覚 動きを生み出す心と体のしくみ 第六章. 56-71 ページ あいり出版. 2004: 56-71.
- 5) 後藤公哉, 飯田 誠, 北村 智, 森川和宥, 吉備 登, 成川洋寿: 良導絡自律神経調整療法(基礎編) 改正版. 日本良導絡自律神経学会学術部. 図書出版・浪速社. 2005. 3.
- 6) 鈴木俊明, 後藤 淳, 渡邊裕文, 大沼俊博, 鈴木俊明, 後藤 淳, 渡邊裕文, 大沼俊博: 神経疾患の評価と理学療法 初版. 東京. エンタプライズ. 2004.
- 7) 鈴木俊明: 理学療法のとらえかた PART3, 初版. 東京. 文光堂. 2004: 102-115.
- 8) 吉益文夫: 神経学的診察の進め方. 精神医学講座担当者会議(監修). 専門医をめざす人の精神医学. 第2版. 東京. 医学書院. 2004; 176-180.

論 文

国際論文

- 1) Ishiguchi T, Mikita N, Iwata T, Nakata H, Sato H, Higashimoto Y, Yoshida S, Itoh H.: Myoclonus and metabolic alkalosis from

- Licorice in Antacid. Internal Medicine. 2004 ; 43 : 59-62.
- 2) Kashiba H, Uchida Y, Takeda D, Nishigori A, Ueda Y, Kuribayash K, Ohshima M. : TRPV2-immunoreactive intrinsic neurons in the rat intestine. Neurosci. Lett. 366: 193-196, 2004 .
 - 3) Maeda T, Fukazawa Y, Shimizu N, Ozaki M, Yamamoto H. and Kishioka S. : Electrophysiological characteristic of corticoaccumbens synapses in rat mesolimbic system reconstructed using organotypic slice cultures. Brain. Res. 2004 ; 1015 : 30-40.
 - 4) Matsuo T, Kasahara Y, Kuribayashi K. : Assessment of the function of peripheral macrophages in rats treated with long term direct moxibustion. JAM 2005 ; 1 : 36-42.
 - 5) Nakatsuka T*, Chen M*, Takeda D*, King C, Ling J, Xing H, et al. (*equal contribution). : Substance P-driven feed- forward inhibitory activity in the mammalian spinal cord. Mol. Pain. 2005 ; 1(20) : 1-9.
 - 6) Nakatsuka T, Sonobe H, Takeda D, Koga A, Fujita T, Kumamoto E. : Substance P actions on synaptic transmission in the rat spinal dorsal horn. Peptide Science 2004. 2005 : 227-230.
 - 7) Onishi M, Matsuo T, Tsuno T, Hosoda A, Nomura E, Taniguchi H, et al. : Antioxidant activity and hypoglycemic effect of ferulic acid in STZ-induced diabetic mice and KK-Ay mice. Bio Factors. 2004 ; 21 : 315-319.
 - 8) Shimizu N, Kishioka S, Maeda T, Fukazawa Y, Yamamoto C, Ozaki M et al. : Role of pharmacokinetic effects in the potentiation of morphine analgesia by L-type calcium channel blockers in mice. J. Pharmacol. Sci. 2004 ; 94 : 240-245.
 - 9) Shimizu N, Kishioka S, Maeda T, Fukazawa Y, Yamamoto C, Ozaki M et al. : Involvement of peripheral mechanism in the verapamil-induced potentiation of morphine analgesia in mice. J. Pharmacol. Sci. 2004 ; 95 : 452-457.
 - 10) Sonobe H, Nakatsuka T, Takeda D, Taniguchi Y, Tamaki T, Yoshida M. : Substance P induced enhancement of inhibitory synaptic transmission in deep dorsal horn. Pain Res. 2004 ; 19 : 9-16.
 - 11) Toda S, Shirataki Y. : Inhibitory effects of resveratrol in *Sophora moorcroftiana* on lipid peroxidation by super-oxide anion. Pharmaceut. Biol. 2004 ; 42(1) : 55-58.
 - 12) Toda S, Shirataki Y. : Inhibitory effects of dlpuerol A in the root of *Sophora japonica* on copper-ion-induced protein oxidative modification of mouse brain homogenate in vitro. Oriental Pharm. Exp. Med. 2004 ; 4(3) : 211-214.
 - 13) Toda S, Shirataki Y. : Inhibitory effects of stilbenes in *Sophora moorcroftiana* BENTH ex BAKER on copper ion-induced protein oxidative modification of mouse brain homogenate in vitro. Phytotherapy Res. 2005 ; 19 : 72-74.
 - 14) Toda S. : Acupuncture treatment for depression symptoms caused by going to work. North Am. J. Oriental Med. 2005 ; 12 : 11-13.
 - 15) Yoshida S, Kokubo Y, Ide-Ekessabi A. : A dramatic accumulation of neurofilaments and zinc with depletion of copper in patients with familial amyotrophic lateral sclerosis. ALS and other motor neuron disorders. 2004 ; 5(suppl 2) : 69-70.
 - 16) 戸田静男: 会社に出勤復帰が出来たうつ症状患者に対する鍼灸治療. 北米東洋医学誌. 2005 ; 12 : 44-46 .
- 国内論文
- 1) 池藤仁美, 坂口俊二, 川本正純 : 開業鍼灸師のための患者情報電子化の試み (第2報). 日本東洋医学系物理療法学会誌(福島大会). 2004 ; 29 : 60-65 .
 - 2) 池藤仁美, 坂口俊二, 山崎寿也, 中吉隆之, 川上智津江, 榎田高士ら : 維持透析患者に対する鍼灸治療の一症例. 日本東洋医学系物理療法学会雑誌. 2004 ; 30 : 50-54 .
 - 3) 井上博紀, 谷 万喜子, 高田あや, 赤川淳一, 鈴木俊明, 若山育郎, 吉田宗平 : 書痙患者に対する鍼灸治療効果 描画動作と筆圧による検討 . 関西理学. 2004 ; 4 : 115-21 .
 - 4) 井上博紀, 谷 万喜子 : 鍼灸治療の視点から捉えた高齢者診療の今日と今後のありかた 神経疾患への鍼灸治療応用の可能性 . マニピュレーション 2004 ; 19(3) : 52-6 .
 - 5) 井上博紀, 谷 万喜子, 高田あや, 鈴木俊明, 若山育郎 : 早期に改善を認めた書痙患者 1症例に対する鍼灸治療. 関西鍼灸大学紀要 2004 ; 1(1) : 59-63 .
 - 6) 入来宏光, 米田浩久, 鈴木俊明 : 体幹筋の筋緊張異常により歩行時に麻痺側体幹に著し

- い前後方向への崩れを認めた左片麻痺患者に対する運動療法と筋電図学的検討 .関西鍼灸大学紀要 2004 ; 1(1) : 79-84 .
- 7) 榎田高士:治療部位としての頭部 頭皮新療法・頭髪際刺鍼法・四神聡刺鍼 .鍼灸 OSAKA . 2004 ; 20(1) : 29-35 .
- 8) 榎田高士:鍼灸安全性に関する既存のエビデンス(1) . 鍼灸臨床における施術野の消毒法 . 全日本鍼灸学会雑誌 . 2004 ; 54(5) : 733-734 .
- 9) 榎田高士 : C 型肝炎と鍼治療 . 医道の日本 . 2005 ; 64 (2) : 114-147 .
- 10) 朱政 , 巖振国 , 王財源 , 吉備登 , 高橋研一 : 脊髄損傷後の MAP-2mRNA 発現に対する低周波置針の影響に関する実験的研究 . 東洋医学とペインクリニック . 2004 ; 33 : 50-56 .
- 11) 張海東 , 杜振蘭 , 巖振国 , 余安勝 , 王財源 , 吉備登ら : 風池 , 風府 , 瘰癧門穴の解剖構造に関するマルチメディア研究 . 東洋医学とペインクリニック . 2004 ; 33 : 41-49 .
- 12) 王財源 , 北出利勝 : 中国の鍼麻酔の現状 . 日本医事新報 . 2004 ; 4191 : 98-99 .
- 13) 王財源 : 鍼灸の適応は , 国により , 術者の力量により , 異なっているのが現状である . 医道の日本 . 2004 ; 63 (6) : 132-135 .
- 14) 王財源 : 刺針深度の安全性を語る上で「弁証論治」の存在を忘れてはならない . 医道の日本 . 2004 ; 63 (10) : 143-147 .
- 15) 王財源 , 吉備登 , 高橋研一邦訳 : 脊髄損傷後の MAP- 2mRNA 発現に対する低周波置針の影響に関する実験的研究 . 東洋医学とペインクリニック . 2003 ; 3 : 530-56 .
- 16) 王財源 : 外感病と内傷病をどのようにして見分けるか . 中医臨床 . 25 (3) : 129-130 .
- 17) 王財源 : 2004 中医中薬鍼灸診治疑難雜病国際学術会議に参加して . 東洋医学とペインクリニック . 2004 ; 34 (1 , 2) : 27-32 .
- 18) 王財源 : 肝の位置について . 中医臨床 . 2004 ; 25 (4) : 124-126 .
- 19) 王財源 , 遠藤宏 , 吉備登 , 北村智 , 榎田高士 , 川本正純 : 東洋医学的な胆府の文献的研究 . 関西鍼灸大学紀要 . 2004 ; 1 : 15-19 .
- 20) 河内明 , 松尾征男 , 久下浩史 , 王財源 , 北出利勝 : 慢性腰痛に対する 1/f リズム ssp 療法の検討 . 医道の日本 . 2004 ; 63 (5) : 92-96 .
- 21) 榎葉均 : ヒスタミン H1 受容体のラットとモルモットの感覚神経における発現の違い . 第 14 回国際痒みシンポジウム 2004 : 20-25 .
- 22) 郭 哲次 , 志波 充 , 吉益文夫 : 肝性脳症 . 日本臨床 . 62 (増刊号 1) . 2004 ; 409-413 .
- 23) 木村研一 , 榎田高士 , 西山 稔 , 別所寛人 : 灸頭鍼法と赤外線照射の併用により火傷が生じた一症例 . 関西鍼灸大学紀要 2005 ; 2 : 50-53 .
- 24) 木村研一 , 米田裕和 , 今井賢治 : 鍼刺激による心拍変動スペクトル解析の変化と起立負荷による影響 . 自律神経 2004 ; 41(3) : 365-372 .
- 25) 岸岡史郎 , 山西徹治 , 前田武彦 , 深澤洋滋 , 清水典史 , 嶽 良博ら : モルヒネの増量なく疼痛緩和が可能であった上行結腸癌肝転移の 1 例 終末期における血漿モルヒネ濃度の経時変化 . ターミナルケア 2004 ; 14(2) : 128-132 .
- 26) 吉備 登 , 王 財源 , 中吉隆之 , 山本博司 , 高橋研一 : 代替医療に関する各医療系学生の意識調査 . 日本代替医療・相補・伝統医療連合会誌 . 第 7 回 JACT 大会 2003 講演集 . 2004 ; 5 (7) : 73 .
- 27) 吉備 登 , 王 財源 , 中吉隆之 , 山本博司 , 高橋研一 : 代替医療に関する専門学校鍼灸学科学生の意識調査 . 日本代替医療・相補・伝統医療連合会誌 . 第 7 回 JACT 大会 2003 講演集 . 2004 ; 5 (7) : 131 .
- 28) 小西哲郎 , 西田祐子 , 林理之 , 上野聡 , 楠進 , 藤村晴俊 , 階堂三砂子 , 松下彰宏 , 上田進彦 , 吉田宗平 , 船川格 : 平成 16 年度近畿地区におけるスモン患者の検診結果 . 厚生労働科学研究補助金 (特定疾患対策事業) スモンに関する調査研究平成 16 年度総括・分担研究報告書 . 2005 ; 37-40 .
- 29) 隅岡俊浩 , 王財源邦訳 : 風池 , 風府 , 瘰癧門穴の解剖構造に関するマルチメディア研究 . 東洋医学とペインクリニック 2003 ; 33 : 41-49 .
- 30) 園部秀樹 , 中塚映政 , 武田大輔 , 谷口泰徳 , 玉置哲也 , 吉田宗人 : 脊髄後角におけるカプサイシン感受性抑制系神経伝達について . 脊髄機能診断学 2004 ; 26 : 23-28 .
- 31) 谷 万喜子 : 頸部ジストニア患者における問題点の予測 . 関西理学 . 2004 ; 4 : 31-5 .
- 32) 高田あや , 井上博紀 , 赤川淳一 , 谷 万喜子 : 自律神経失調症の治療を希望する症例に対する鍼灸治療 . マニピュレーション 2005 ; 20(1) : 25-8 .
- 33) 高田あや , 谷 万喜子 , 井上博紀 , 鈴木俊明 , 若山育郎 , 柳生隆視ら : 重度頸部右回旋および不随意運動を呈した頸部ジストニア患者に対する鍼灸治療 . 関西鍼灸大学紀要 2004 ; 1(1) : 53-58 .
- 34) 武田大輔 , 中塚映政 , 園部秀樹 , 麻殖生和博 ,

- 玉置哲也, 谷口泰徳ら: 脊髄痛覚伝達回路におけるニコチン受容体の役割. 脊髄機能診断学 2004; 26: 1-6.
- 35) 東家一雄, 木村通郎: リンパ節高内皮細静脈におけるリンパ球再循環関連接着分子の発現様式. リンパ学. 2004; 27(2): 62-6.
- 36) 中塚和樹, 米田浩久, 鈴木俊明: 重度の感覚障害によって歩行に問題を認めた慢性期脳血管障害片麻痺患者の運動療法と重心動揺並びに筋電図学的検討 感覚刺激の重要性について. 関西鍼灸大学紀要 2004; 1(1): 71-78.
- 37) 松岡成治, 米田浩久, 鈴木俊明: 体幹アプローチが歩容改善に重要であった脳血管障害片麻痺患者の運動療法と筋電図学的効果検討. 関西鍼灸大学紀要 2004; 1(1): 85-91.
- 38) 森岡郁晴, 王 天奎, 宮井信行, 山本博一, 南 佳宏, 坂口俊二ら: 思春期における血清レプチン濃度の基準値作成の試み. Auxology 2004; 10: 18-20.
- 39) 森本昌弘, 榎田高士: アレルギー性鼻炎 病態・診断・治療. 鍼灸 OSAKA 2005; 20(4): 386-393.
- 40) 弓永久哲, 三浦雄一郎, 鈴木俊明: 動作分析に動作筋電図検査を用いた小脳出血の一症例. 関西鍼灸大学紀要. 2004; 1: 54-61.
- 41) 吉田宗平: CLINICAL NEUROSCIENCE. 人物往来 八瀬善郎. 2004; 22: 1220.
- 42) 吉田宗平, 坂口俊二, 鍋田理恵, 赤川淳一, 山崎寿也, 吉田博信: 耳介膝点への鍼刺激による体表温度と自律神経機能の変化について MEM 法によるパワースペクトル解析とカオス解析を用いて. 関西鍼灸大学紀要 2004; 1: 6-14.
- 43) 吉田宗平, 鈴木俊明, 中吉隆之, 吉益文夫: スモン患者におけるパーキンソン病の頻度について. 厚生労働科学研究補助金(特定疾患対策事業)スモンに関する調査研究斑平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2005; 89-90.
- 44) 吉田宗平, 鈴木俊明, 中吉隆之, 池藤仁美, 吉益文夫: 和歌山県下鍼灸師のスモン患者治療状況と今後の課題 スモン患者の QOL 向上を目的として. 厚生労働科学研究補助金(特定疾患対策事業)スモンに関する調査研究斑平成 15 年度総括・分担研究報告書. 2004; 153-155.
- 45) 吉田宗平, 鈴木俊明, 中吉隆之, 森岡聖次: スモン患者におけるパーキンソン病の頻度について. 厚生労働科学研究補助金(特定疾患対策事業)スモンに関する調査研究斑平成 16 年度総括・分担研究報告書. 2005; 89-90.
- 46) 吉田宗平, 鈴木俊明, 中吉隆之: 和歌山県スモン患者の立ち上がり動作, 歩行動作における前方移動能力の重要性. 厚生労働科学研究補助金(特定疾患対策事業)スモンに関する調査研究斑平成 16 年度総括・分担研究報告書. 2005; 113-115.
- 47) 米田浩久, 鈴木俊明: 体幹筋活動の改善が頸部機能に改善を認めた頸部ジストニア患者の一症例. 関西鍼灸大学紀要 2004; 1(1): 64-70.
- 48) 渡邊裕文, 鈴木俊明: 脳血管障害片麻痺患者の痙性期に対する理学療法 下肢機能に着目して. ポバースジャーナル 2004; 27(1): 2-7.

学会発表 国際学会

- 1) Fukazawa Y, Kishioka S, Maeda T, Hamabe W and Yamamoto H.: Cholecystokinin-induced release of substance P involved in the suppression of morphine analgesia after electroacupuncture stimulation in rats. 35th International Narcotics Research Conference. Kyoto. 2004. 7.
- 2) Kishioka S, Maeda T, Hamabe W, Fukazawa Y, Dake Y, Kumamoto K et al.: Attenuation of morphine effects in streptozotocin-induced diabetic mice; pharmacokinetic and pharmacodynamic studies. 35th International Narcotics Research Conference. Kyoto. 2004. 7.
- 3) Kimura K, Masuda K, Bessho H, Wakayama I.: Influence of orthostatic stress on the changes of power spectral analysis of heart rate variability during manual acupuncture stimulation. 7th World Conference on Acupuncture. Gold Coast, Australia. 2004. 1.
- 4) Maeda T, Kishioka S, Hamabe W, Fukazawa Y, Yamamoto C, Gao Y et al.: Effect of single and repeated exposure to cocaine on corticoaccumbens synaptic response in rat mesolimbic system reconstructed using organotypic slice cultures. International Symposium for Opioid and Pain-related Peptide. Sendai. 2004. 7.
- 5) Maeda T, Kishioka S, Hamabe W, Fukazawa Y, Kumamoto K, Dake Y et al.: Involvement of serin/threonine protein phosphatase in morphine analgesia in mice. 35th International Narcotics Research Conference. Kyoto. 2004. 7.

- Narcotics Research Conference. Kyoto. 2004. 7.
- 6) Nakatsuka T, Sonobe H, Takeda D, Koga A, Fujita T, Kumamoto E.: Substance P induced facilitation of inhibitory synaptic transmission in rat spinal dorsal horn. Asia-Pacific International Peptide Symposium & 41st Japanese Peptide Symposium. Fukuoka. 2004. 10.
 - 7) Nakatsuka T, Takeda D, Furue H, Kumamoto E, Yoshimura M: Distinct roles of presynaptic P2X receptors in modulating glutamate release from central terminals of primary afferents. Annual Meeting of the Physiological Society of Japan. Sapporo. 2004. 6.
 - 8) Sakaguchi S, Miyai N, Yamamoto H, Minami Y, Terada K, Tomida K, et al.: Changes of peripheral circulation by silver spike point therapy among workers exposed to hand-arm vibration. 10th International Conference on Hand-Arm vibration. Las Vegas, USA. 2004. 6.
 - 9) Sakaguchi S, Terada K, Tomura T, Miyai N, Yamamoto H, Miyashita K.: Evaluation of peripheral circulatory dysfunction in hand-arm vibration syndrome by the differences of skin temperature between metacarpal and wrist. 12th Japan Group Meeting on Human Response to Vibration. Kumamoto. 2004. 7.
 - 10) Takahashi K P., Tsugawa K, Kibi N, Inoue A.: Association of HNRNP S1 Proteins with Vimentin Intermediate Filaments and Microfilaments. 16th International Congress of the IFAA. 2004.8.
 - 11) Takeda D, Nouda K, Nishi H, Miyazaki N, Yoshida M, Nakatsuka T.: Comparison of the membrane dysfunction induced by in vitro ischemia in ventral and dorsal horn neurons of the rat spinal cord. The 82nd Annual Meeting of the Physiological Society of Japan. Sendai. 2004. 5.
 - 12) Takeda D, Nakatsuka T, Sonobe H, Taniguchi Y, Yoshida M.: Differential nicotinic receptor expression in rat spinal inhibitory interneurons. Annual Meeting of the Physiological Society of Japan. Sapporo 2004. 6.
 - 13) Tohya K, Kimura M.: Induced expression of MAdCAM-1 on perioheral lymph node HEV after immunization. 16th International Congress of the International Federation of Associations of Anatomists. Kyoto. 2004. 8.
 - 14) Wang CY, ENDO H, KIBI N.: A Study Coughing by Successive Chinese Medical Literature International. Seminar on the Diagnosis and Treatment with TCM 2004. CHAINA HANGZHOU. 2004. 4.
 - 15) Wang C Y.: The Present Situation of Traditional Chinese Medicine in CHINA. The 1St International Meeting for Experts on Integrative Medicine by Professional Authorities. Tokyo. 2004. 1.
 - 16) 王財源. 中国の中医の現状について. 第一回国際統合医療専門家会議. 東京. 2004. 1.
 - 17) 王財源, 遠藤宏, 吉備登. 歴代中医文献止咳臨床研究的検討 2004 中医中薬鍼灸診治疑難雜病国際学術会議. 中国 杭州. 2004. 4.
- 国内学会
- 1) 赤松圭介, 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 鈴木俊明ら: 胸郭可動域制限が頸部補助呼吸筋に及ぼす影響. 第44回近畿理学療法学術集会. 和歌山. 2004. 11.
 - 2) 五十嵐純, 戸村多郎, 松岡勇二: 施術者の腰痛と業務特性との関連について. 第53回全日本鍼灸学会学術大会. 千葉. 2004. 6.
 - 3) 井上博紀, 谷万喜子, 高田あや, 赤川淳一, 鈴木俊明, 若山育郎, 吉田宗平: 書痙患者1症例に対する鍼治療効果 書字評価テストと筆圧測定から検討して. 第53回全日本鍼灸学会学術大会. 千葉. 2004. 6.
 - 4) 井上博紀, 谷万喜子, 高田あや, 赤川淳一, 鈴木俊明, 若山育郎, 吉田宗平: 書痙を主症状とした分節性ジストニア 1症例に対する鍼治療効果. (社)全日本鍼灸学会第24回近畿学術集会. 京都. 2004. 10.
 - 5) 池藤仁美, 中吉隆之, 坂口俊二, 川本正純, 吉田宗平: 耳鍼療法による中国式とノジェ式の取穴法の相違について 耳鍼用電子データベースを利用して. 第53回全日本鍼灸学会学術大会. 香川. 2004. 6.
 - 6) 入来宏光, 米田浩久, 鈴木俊明: 両側立脚中期から後期にかけて前方への円滑な体重移動が困難であった多発性神経炎患者に対する運動療法 体幹と骨盤の動きに着目することの重要性. 第16回大阪府理学療法学術大会. 大阪. 2004. 7.
 - 7) 榎田高士, 奥田学: 鍼治療における皮膚消毒法の検討(第3報)70%イソプロピルアルコールの消毒効果. 第53回全日本鍼灸学会学術大会. 千葉. 2004. 6.

- 8) 榎田高士：施術野の消毒法．第 53 回全日本鍼灸学会学術大会．千葉．2004．6．
- 9) 榎田高士，奥田学：鍼灸治療における皮膚消毒法の消毒効果．第 53 回全日本鍼灸学会学術大会．千葉．2004．6．
- 10) 奥田学，榎田高士，山崎寿也，松尾貴子，笠原由紀，栗林恒一：肝炎ウイルスは円皮鍼に付着するか．第 53 回全日本鍼灸学会学術大会．千葉．2004．6．
- 11) 王財源，中吉隆之，吉備登，山本博司，高橋研一：今話題の代替医療を考えよう！ 意識調査をベースにして（医学部学生）．第 56 回日本自律神経学会学術大会 シンポジウム(1)．北海道大学学術交流会館．2004．10．
- 12) 大沼俊博，渡邊裕文，蔦谷星子，三好裕子，山口剛司，鈴木俊明ら：片脚立位における非支持側股関節外転角度変化が外腹斜筋，内腹斜筋および腰背筋群の筋積分値に与える影響．第 39 回日本理学療法学術大会．宮城．2004．5．
- 13) 大谷泰弘，河内明，王 財源：ペインクリニックでの弁証論治に基づいた鍼灸治療の検討 腎陰虚証の一例．日本東洋医学会関西支部例会．神戸．2004．10．
- 14) 大谷泰弘，葛岡美恵，清藤直人，亀井陽子，王 財源：鍼灸治療における弁証論治の実際．第 40 回東洋医学とペインクリニック．大阪医科大学．2004．5．
- 15) 亀井陽子，河内明，金睦子，久下浩史，王財源ら：腰痛患者に対する箱灸を併用した鍼灸治療の試み(2)．第 40 回東洋医学とペインクリニック．大阪医科大学．2004．5．
- 16) 榎葉均，内田靖之，武田大輔，上田至宏，錦織綾彦，大島稔：TRPV2 のラット末梢神経系における発現 - 特に腸管神経系について - ．TRPV2 immunoreactive afferent and efferent neurons in peripheral nervous system of the rat．第 81 回日本生理学会大会．札幌．2004．
- 17) 金井一暁，米田浩久，鈴木俊明：健常者の前方ステップ動作における体幹筋の筋活動特性．第 39 回日本理学療法学術大会．宮城．2004．5．
- 18) 金井一暁，米田浩久，鈴木俊明：内腹斜筋へのアプローチにより座位保持の安定性に改善がみられた脳幹出血後遺症患者に対する一考察．第 16 回大阪府理学療法学術大会．大阪．2004．7．
- 19) 河内明，亀井陽子，金睦子，久下浩史，王財源，北出利勝：慢性患者に対する箱灸を併用した鍼灸治療の検討．第 13 回全日本鍼灸学会大阪地方会学術集会．大阪．2004．10．
- 20) 木村研一，坂口俊二，別所寛人，若山育郎：鍼刺激による心拍変動スペクトル解析の変化と起立負荷による影響．第 53 回全日本鍼灸学会学術大会．千葉．2004．6．
- 21) 木村研一，峠康，安藤宗治，大浦晴夫，吉田宗人，玉置哲也：神経内腫瘍の術前診断における microneurography の試み．第 34 回日本臨床神経生理学会学術大会．東京．2004．11．
- 22) 吉備 登，王 財源，中吉隆之，山本博司，高橋研一：「今話題の代替医療を考えよう！ 意識調査をベースにして」鍼灸科・柔整科学生．第 56 回日本良導絡自律神経学会学術大会シンポジウム．北海道．2004．10．
- 23) 吉備 登，王 財源，中吉隆之，山本博司，高橋研一：「今話題の代替医療を考えよう！ 意識調査をベースにして - 」総括．第 56 回日本良導絡自律神経学会学術大会シンポジウム．北海道．2004．10．
- 24) 吉備 登，王 財源，中吉隆之，山本博司，鈴木けい子，高橋研一：代替医療に関する医師・鍼灸師・医療系および非医療系学生の意識調査．第 8 回 JACT 大会 2005 福岡 2005.2．
- 25) 吉備 登，王 財源，中吉隆之，山本博司，高橋研一：代替医療に関する学生の意識調査（第 2 報） 大学・専門学校の鍼灸学科を対象にして．第 53 回全日本鍼灸学会学術大会．千葉．2004.6．
- 26) 吉備 登，王 財源，中吉隆之，山本博司，高橋研一：代替医療に関する学生の意識調査（第 5 報） 各医療系学生と非医療系学生．全日本鍼灸学会近畿学術集会 京都 2004.10．
- 27) 古賀和美，米田浩久，鈴木俊明：症例報告 内反尖足により歩行困難であった左片麻痺患者．第 16 回大阪府理学療法学術大会 大阪．2004．7．
- 28) 坂口俊二，宮井信行，森岡郁晴，宮下和久：温泉浴によるリラクゼーションの効果．第 69 回日本温泉気候物理医学会 鹿児島 2004.5．
- 29) 坂口俊二，松畑 出，木村研一，吉田宗平：鍼灸治療による自律神経機能賦活・バランス調整．第 53 回全日本鍼灸学会．千葉．2004.6．
- 30) 坂口俊二，宮下和久：手腕系振動障害判定における冷水負荷サーモグラフィの有用性．第 21 回日本サーモロジー学会 鳥取 2004.6．
- 31) 坂口俊二，山崎寿也，榎田高士，若山育郎：維持透析患者に対する円皮鍼治療の一症例

- (第2報). 第56回日本東洋医学会. 横浜. 2004. 6.
- 32) 坂田友加, 川見大作, 河合隆介, 山本幸代, 谷埜予士次, 鈴木俊明: 皮膚接触鍼の施術効果. 第54回日本病院学会. 神奈川. 2004. 7.
- 33) Shimizu N, Kishioka S, Maeda T, Fukazawa Y, Dake Y, Kumamoto K et al.: Involvement of opioid system in chronic pain-induced attenuation of the development of physical dependence on morphine in mice. 第77回日本薬理学会年会. 大阪. 2004. 3.
- 34) 鈴木俊明, 谷 万喜子, 井上博紀, 高田あや, 赤川淳一, 若山育郎ら: 書痙患者に対する鍼治療. 第45回日本神経学会総会. 東京. 2004. 5.
- 35) 鈴木俊明: ジストニアに対する鍼灸治療効果と現状. 第53回全日本鍼灸学会学術大会. 千葉. 2004. 6.
- 36) 鈴木俊明, 弓永久哲, 谷 万喜子, 若山育郎, 吉田宗平, 才藤栄一ら: 部位により筋緊張亢進程度が異なった痙縮筋に対するダイレクトストレッチの筋電図学的効果検討. 第44回近畿理学療法学術集会. 和歌山. 2004. 11.
- 37) 鈴木俊明, 谷 万喜子, 井上博紀, 高田あや, 赤川淳一, 若山育郎ら: 書痙患者に対する鍼治療と筆圧, 筋電図解析を用いた効果検討. 第34回日本臨床神経生理学会学術大会. 東京. 2004. 11.
- 38) 鈴木俊明, 弓永久哲, 谷 万喜子, 若山育郎, 吉田宗平, 才藤栄一ら: 部位により筋緊張亢進程度が異なった痙縮筋の筋電図学的検討および運動療法効果検討. 第34回日本臨床神経生理学会学術大会. 東京. 2004. 11.
- 39) 高崎恭輔, 大工谷新一, 谷埜予士次, 西守隆, 廣瀬浩昭, 鈴木俊明ら: トルク波形を用いた運動技能評価の試み. トルク逸脱量の算出による検討. 第39回日本理学療法学術大会. 宮城. 2004. 5.
- 40) 高崎恭輔, 大工谷新一, 谷埜予士次, 西守隆, 金井一暁, 鈴木俊明: トルクカーブで運動技能は評価できるか? 第16回大阪府理学療法学術大会. 大阪. 2004. 7.
- 41) 高田あや, 谷 万喜子, 井上博紀, 赤川淳一, 鈴木俊明, 若山育郎, 吉田宗平: 長期頸部ジストニア患者に対する鍼治療. 心理的要因が関与した一症例. 第53回全日本鍼灸学会学術大会. 千葉. 2004. 6.
- 42) 高橋研一, 王 財源, 吉備 登, 中吉隆之, 山本博司: 「今話題の代替医療を考えよう! 意識調査をベースにして」看護学科学生. 第56回日本良導絡自律神経学会学術大会シンポジウム. 北海道. 2004. 10.
- 43) 高橋研一, 中吉隆之, 吉備登, 山本博司, 王財源: 話題の代替医療を考えよう! 意識調査をベースにして(看護学科学生). 第56回日本自律神経学会学術大会 シンポジウム(1). 北海道大学学術交流会館. 2004. 10.
- 44) 戸田静男: 『東医宝鑑』による鍼灸の臨床的意義について. 第53回全日本鍼灸学会学術大会. 千葉. 2004. 6.
- 45) 戸田静男: 鍼灸による抗炎症作用の実験的研究. 第55回日本東洋医学界学術総会. 横浜. 2004. 6.
- 46) 戸田静男: 十薬 polyphenol のタンパク質断片化に対する抑制作用. 日本生薬学会第51年会. 神戸. 2004. 9.
- 47) 東家一雄, 木村通郎: リンパ節高内皮細静脈におけるリンパ球再循環関連接着分子の発現様式. 第28回日本リンパ学会総会シンポジウム「リンパ組織と血管のクロストーク」. 富山. 2004. 6.
- 48) 中吉隆之, 吉田宗平, 鈴木俊明, 池藤仁美: 耳介に対する電氣的探索の反応部位について. ジストニア患者とスモン患者の比較. 第53回全日本鍼灸学会学術大会. 千葉. 2004. 6.
- 49) 中吉隆之, 王財源, 吉備登, 山本博司, 高橋研一: 話題の代替医療を考えよう! 意識調査をベースにして(良導絡自律神経学会会員). 第56回日本自律神経学会学術大会 シンポジウム(1). 北海道大学学術交流会館. 2004. 10.
- 50) 中吉隆之, 池藤仁美, 鈴木俊明, 吉田宗平: 耳介刺激療法が有効と考えられた左片側顔面痙攣の一症例. 第53回全日本鍼灸学会学術大会. 千葉. 2004. 6.
- 51) 中塚和樹, 米田浩久, 鈴木俊明: 慢性期脳血管障害片麻痺患者の上肢の運動療法と麻痺側上肢の筋電図学的検討. 第16回大阪府理学療法学術大会. 大阪. 2004. 7.
- 52) 西 秀人, 納田和博, 宮崎展行, 武田大輔, 園部秀樹, 谷口泰徳ら: 低温下における脊髄前角細胞への虚血負荷についての検討. 第26回脊髄機能診断研究会. 東京. 2005. 2.
- 53) 納田和博, 西 秀人, 宮崎展行, 武田大輔, 園部秀樹, 吉田宗人ら: 脊髄前角細胞と後角細胞における虚血耐久性の比較. 第26回脊髄機能診断研究会. 東京. 2005. 2.
- 54) 濱邊和歌子, 岸岡史郎, 前田武彦, 深澤洋滋, 熊本和正, 山本千鶴子ら: モルヒネの体内動

- 態に及ぼす加齢の影響. 第 25 回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム . 京都 . 2004. 7 .
- 55) 深澤洋滋, 岸岡史郎: 通電鍼刺激による内因性抗鎮痛機構の活性化とグルタミン酸受容体. 第 52 回全日本鍼灸学会学術大会 . 千葉 . 2004. 6 .
- 56) 藤本将志, 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 鈴木俊明ら: 端座位における側方への一側手支持が腹斜筋の筋活動に与える影響 荷重量の変化による検討 . 第 44 回近畿理学療法学術集会 . 和歌山 . 2004. 11 .
- 57) 福島秀晃, 三浦雄一郎, 布谷美樹, 田中伸幸, 山本栄里, 鈴木俊明: 肩関節初期屈曲角度での僧帽筋の機能について . 第 44 回近畿理学療法学術集会 . 和歌山 . 2004. 11 .
- 58) Fukazawa Y, Kishioka S, Maeda T, Shimizu N, Kumamoto K, Dake Y et al.: Electroacupuncture-induced anti-morphine action in rats; Differential involvement in analgesia and hyperthermia. 第 77 回日本薬理学会年会 . 大阪 . 2004. 3 .
- 59) 前田武彦, 岸岡史郎, 濱邊和歌子, 深澤洋滋, 高遠, 山本千鶴子ら: モルヒネ鎮痛発現におけるセリン/スレオニンプロテインフォスファターゼ PP5 の関与. 第 106 回日本薬理学会近畿部会 . 京都 . 2004. 11 .
- 60) 前田武彦, 岸岡史郎, 濱邊和歌子, 深澤洋滋, 熊本和正, 山本千鶴子ら: コカイン反復適用の皮質 側坐核シナプス応答に及ぼす影響 ラット中脳辺縁系培養切片を用いた電気生理学的検討 . 第 25 回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム . 京都 . 2004. 7 .
- 61) 前田武彦, 岸岡史郎, 濱邊和歌子, 深澤洋滋, 山本千鶴子, 山本博之: モルヒネの鎮痛作用および移所運動活性増加作用におけるプロテインフォスファターゼの役割. 第 105 回日本薬理学会近畿部会 . 徳島 . 2004. 6 .
- 62) 松尾貴子, 笠原由紀, 栗林恒一: 間接灸によるラット腹腔マクロファージの機能の評価 . 第 53 回全日本鍼灸学会学術大会 . 千葉 . 2004. 6 .
- 63) 松岡成治, 鈴木俊明, 米田浩久: 治療として立位での側方移動が重要であった脳血管障害片麻痺患者に対する筋電図学的検討 . 第 16 回大阪府理学療法学術大会 . 大阪 . 2004. 7 .
- 64) 丸岡純子, 中塚和樹, 松岡成治, 米田浩久, 鈴木俊明: 立位姿勢と歩行動作に問題が認められた多発神経炎の一症例 . 第 16 回大阪府理学療法学術大会 . 大阪 . 2004. 7 .
- 65) 三浦雄一郎, 鈴木俊明: 骨盤後退を呈する片麻痺患者に対し股関節内転筋にアプローチし改善した一症例 . 第 39 回日本理学療法学術大会 . 宮城 . 2004. 5 .
- 66) 森健浩, 米田浩久, 鈴木俊明: 分廻し歩行を呈する右片麻痺患者における歩行時の麻痺側離床動作と体幹筋の活動について 体幹筋の緊張異常に起因する下肢連合反応と分廻し歩行の関係について . 第 16 回大阪府理学療法学術大会 . 大阪 . 2004. 7 .
- 67) 山本博司, 王財源, 吉備登, 中吉隆之, 高橋研一: 代替医療に関する学生の意識調査 専門学校柔整学科を対象にして . 第 13 回全日本鍼灸学会大阪地方会学術集会 . 大阪 . 2004. 10 .
- 68) 山本博司, 吉備登, 王財源, 中吉隆之, 高橋研一: 話題の代替医療を考えよう! 意識調査をベースにして(理学療法科学生). 第 56 回日本自律神経学会学術大会 シンポジウム(1) . 北海道大学学術交流会館 . 2004. 10 .
- 69) 山本栄里, 三浦雄一郎, 福島秀晃, 布谷美樹, 田中伸幸, 鈴木俊明: 発音時の表情筋の筋電図学的分析. 第 44 回近畿理学療法学術集会 . 和歌山 . 2004. 11 .
- 70) 山本温, 木村研一, 坂口俊二, 若山育郎, 吉田宗平: 暗算負荷による心血管系自律神経機能の変化と置鍼の影響 . 第 54 回全日本鍼灸学会学術大会 . 福岡 . 2005. 6 .
- 71) 山口剛司, 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 鈴木俊明ら: ステップ肢位における支持側腓骨筋の筋積分値および足底圧分布変化 内, 外側へのステップ距離の変化による検討 . 第 39 回日本理学療法学術大会 . 宮城 . 2004. 5 .
- 72) 山崎寿也, 榎田高士, 中吉隆之, 池藤仁美, 内田靖之, 川上智津江, 松尾貴子, 木村研一, 鍋田理恵, 遠藤宏, 吉備登: 施灸の風邪予防効果に対するランダム化比較試験における検討 . 第 53 回全日本鍼灸学会学術大会 . 千葉 . 2004. 6 .
- 73) 弓永久哲, 三浦雄一郎, 鈴木俊明: 動作分析に動作筋電図検査を用いた小脳出血の一症例 . 第 16 回大阪府理学療法学術大会 . 大阪 . 2004. 7 .
- 74) 弓永久哲, 鈴木俊明, 若山育郎: 上部体幹の可動性低下により体幹筋の機能不全が生じた脳血管障害患者の一症例 . 第 4 回関西理学療法学会 . 大阪 . 2004. 12 .
- 75) 吉田宗平, 中野亮一, 菊川公紀, 井手亜里, 白澤功洋, 川上拓男: 家族性 ALS 関連ヒト変

- 異型 Cu/ZnSOD 蛋白凝集体の微量元素分析 . 第 45 回日本神経学会総会 . 東京 . 2004 . 5 .
- 76) 吉田宗平, 鈴木俊明, 中吉隆之, 森岡聖治 : スモン患者におけるパーキンソン病の頻度について . 平成 16 年度厚生労働省「スモンに関する調査研班」班会議 . 東京 . 2005 . 2 .
- 77) 吉田宗平, 鈴木俊明, 中吉隆之 : 和歌山県スモン患者の立ち上がり動作, 歩行動作における前方移動能力の重要性平成 16 年度厚生労働省「スモンに関する調査研班」班会議 . 東京 . 2005 . 2 .
- 78) 吉田宗平 : スモン患者におけるパーキンソン病の頻度について . 平成 16 年度厚生労働省「スモンに関する調査研班」班会議 . 東京 . 2005 . 2 .
- 79) 米田浩久, 鈴木俊明 : 脳卒中片麻痺患者に対する筋力強化訓練と病的筋緊張異常に対する運動療法の有効性について 動作分析および表面筋電図を用いた効果検討 . 第 16 回大阪府理学療法学会 . 大阪 . 2004 . 7 .
- 80) 米田浩久, 鈴木俊明 : 動作習得前後における立位での右下肢のステップ動作時の体幹筋筋活動の検討 . 第 44 回近畿理学療法学会 . 和歌山 . 2004 . 11 .
- 81) 渡邊裕文, 蔦谷星子, 大沼俊博, 三好裕子, 山口剛司, 鈴木俊明ら : 体幹運動の違いが外腹斜筋の筋積分値の及ぼす影響 外腹斜筋における筋線維方向の違いによる検討 . 第 39 回日本理学療法学会 . 宮城 . 2004 . 5 .

講演

- 1) 榎田高士 : 耳鼻咽喉系疾患の鍼灸治療 . 兵庫県鍼灸マッサージ師会 . 姫路 . 2004 . 11 .
- 2) 榎田高士 : 鍼灸治療における感染症と予防法 . 東洋医学とペインクリニック研究会第 8 回教育セミナー . 大阪 . 2004 . 11 .
- 3) 榎田高士 : ツボ治療でリラックスしましょう QOL をあげるために . 堺市難病支援ネットワーク協議会 . 2005 . 2 .
- 4) 大西基代 : 活性酸素とポリフェノール . 大阪府立和泉高等学校同窓会総会 . 岸和田市 . 2004 . 4 .
- 5) 王財源 : 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ . 愛媛県中医学研究会 . 松山市 . 2004 . 6 .
- 6) 王財源 : 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ . 愛媛県中医学研究会 . 松山市 . 2004 . 9 .
- 7) 王財源 : 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ . 愛媛県中医学研究会 . 松山市 . 2004 . 11 .
- 8) 王財源 : 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ . 愛媛県中医学研究会 . 松山市 . 2004 . 12 .
- 9) 王財源 : 「臨床中医臟腑学」蔵象論を学ぶ . 愛媛県中医学研究会 . 松山市 . 2004 . 3 .
- 10) 王財源 : 呼吸器系疾患に対する鍼灸治療 . (社)兵庫県鍼灸マッサージ師会 . 明石市 . 2004 . 7 .
- 11) 木村研一 : 皮膚交感神経活動の性質と鍼刺激の影響 . 日本良導絡自律神経学会近畿支部講習会 (基礎講座) . 大阪 . 2004 . 4 .
- 12) 吉備 登 : 頭皮鍼 . (社)全日本鍼灸マッサージ師会生涯研修講習会 . 2004 . 8 .
- 13) 吉備 登 : 頭皮鍼 . (社)全日本鍼灸マッサージ師会生涯研修講習会 . 2004 . 10 .
- 14) 吉備 登 : 頭皮鍼療法 . 第 3 回日本良導絡自律神経学会近畿支部講習会第 1 回 . 2004 . 11 .
- 15) 吉備 登 : 家庭でできる鍼灸治療 便通を整え腸内美人になりましょう . あるふぁシチィくまとり健康教室 . 関西鍼灸大学附属診療所健康教室 . 2005 . 2 .
- 16) 吉備 登 : 治療院におけるリスク管理 . (社)全日本鍼灸マッサージ師会生涯研修講習会 . 2005 . 3 .
- 17) 坂口俊二 : リフレッシュ講座 . 三井化学大阪工場健康管理室主催講座 . 大阪 . 2004 . 4 .
- 18) 坂口俊二 : 鍼灸治療の適応症 鍼灸治療はどのような疾患 (症状) に効くのか . 第 14 回関西鍼灸大学附属診療所健康教室 . 大阪 . 2004 . 8 .
- 19) 坂口俊二 : あんまはりきゅうの未来を展望して (パネルディスカッション) . 第 30 回日本東洋医学系物理療法学会 . 京都 . 2004 . 11 .
- 20) 坂口俊二 : 赤羽療法 . 日本良導絡自律神経学会近畿支部講習会 . 大阪 . 2004 . 11 .
- 21) 坂口俊二 : 赤羽氏法 . 朝日医療技術専門学校特別講義 . 岡山 . 2004 . 11 .
- 22) 坂口俊二 : 医師のための鍼灸講座 「冷え症」の診かたと治療 . 日本東洋医学会関西支部講演会 . 和歌山 . 2004 . 12 .
- 23) 坂口俊二 : 鍼灸の未来展望 . 全日本鍼灸学会和歌山地方会第 15 回学術研修会 . 和歌山 . 2005 . 2 .
- 24) 坂口俊二 : 循環器疾患の鍼灸治療 . 兵庫県鍼灸マッサージ師会講演会 . 尼崎 . 2005 . 2 .
- 25) 戸田静男 : 関節リウマチの鍼灸治療 . 平成 16 年度熊取町ゆうゆう大学公民館教養学部現代的課題学習コース「くらしと健康セミナー」 . 熊取町 . 2004 . 11 .
- 26) 東家一雄 : 免疫電顕でみたリンパ球ホーミング関連接着分子の局在様式 . 大阪大学医学部第 29 回細胞分子認識セミナー . 大阪 . 2004 . 8 .
- 27) 吉益文夫 : 職員のメンタルヘルス ストレ

- スに関連して .田辺地区市町村保健師研修会 . 田辺市市民総合センター . 2004. 8 .
- 28) 吉益文夫: 職場のメンタルヘルス対策のために ストレス関連障害を巡って . 和歌山労働局幹部職員研修 . 和歌山市 . 2004. 10 .
- 29) 吉益文夫: 健康づくり講話: 職場での健康管理 メンタルヘルスに関連して . 和歌山県社会保険協会 . 和歌山市 . 2004. 12 .
- 30) 吉益文夫: 心の病と身体症状 鍼灸治療への期待を込めて . 和歌山県鍼灸マッサージ師会 . 和歌山市 . 2005. 2 .
- 31) 若山育郎: 神経疾患に鍼灸を応用して . 東洋医学気血研究会 . 久留米大学 . 2004. 8. 24 .
- 32) 若山育郎: 脊髄小脳変性症について . 難病相談会 (泉佐野) . 泉佐野保健所 . 2004. 10. 5 .
- 33) 若山育郎: 神経疾患と漢方・鍼灸 . 難病相談会 (御坊) . 御坊保健所 . 2004. 12. 2 .
- 34) 若山育郎: 神経疾患と漢方治療 . 関西東洋医学研修講座 . NTT コミュニティープラザ大阪 . 2004. 11. 20 .
- 35) 若山育郎: Parkinson 病の漢方治療 . 日本東洋医学会和歌山県部会講演会 . 和歌山ビッグ愛 . 2004. 12. 5 .
- 36) 若山育郎: 各科の漢方治療 神経内科 . 日本東洋医学会関西支部三県合同講演会 . 森ノ宮医療学園専門学校 . 2005. 2. 27 .

その他

- 1) 日本工業規格 JIS T9301 JIS 単回使用ごうしん (毫鍼) . (JIPT/JSA)
津谷喜一郎 , 青木恒朗 , 伊東大輔 , 榎田高士 , 尾崎昭弘 , 須山健司 , 高田幸一 , 西村寛 , 八田薫 , 藤本浩二 , 山下仁 , 山本弘史 , 大藤はるみ . 日本工業標準調査会審議日本規格協会 . 2005. 3 .

研究助成

- 1) 榎葉均 , 大島稔 . 平成 16 年度科学研究費補助金 (基盤研究 C) . ヒスタミン感受性ニューロンの機械的 , 化学的 , 熱刺激に対する応答とそれらの受容体 .